省エネルギー行動に対する価値観影響の理論化に向けて
ー 第2報 ー

BECC Japan 2020

ライトニング発表セッションC3：価値観・動機付け

2020年8月25日（火）

○大塚 彩美* ・ 増田 達矢** ・鳴海 大典***

* 早稲田大学社会科学部 講師

** 富士電機㈱（元 横浜国立大学大学院環境情報学府）

***横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授

研究の背景と目的

背景

✓ パリ協定下の目標達成に向け、省エネルギーおよび低炭素社会の推進の重要性は増す一方

- 2030年までに 温室効果ガスの排出26%減（2013年度比）
  ⇒ 家庭部門では4割減

「省エネルギーを一層推進するライフスタイル」の普及

▼

人々の省エネルギー行動をその背景にある価値観を含め、包括的に捉えて検討する必要があるのではないか？

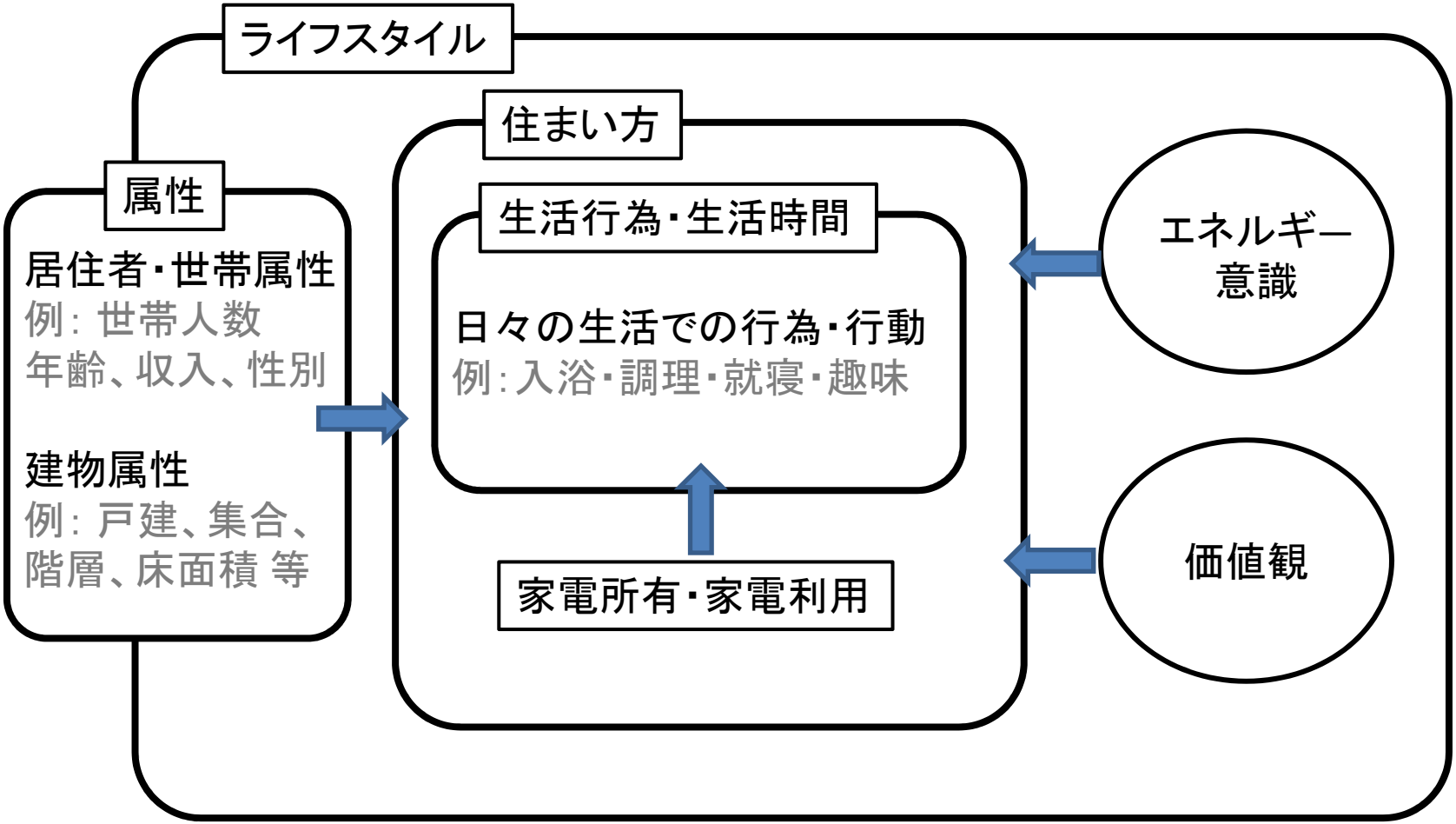
▼

研究の目的

「省エネルギーを一層促進するライフスタイル」がどのようなものかを検討してきた発表者らの予備的検討結果*を基に、**省エネルギー行動やエネルギー消費に対する価値観の影響**を汎用的に説明できる理論化への道筋をつける

(*BECC Japan 2017発表 - 大塚の博士研究)

研究の枠組み:“ライフスタイル”とは？



$$Ce = f(Y, Np, T, Ned, \cdots, EC, V)$$

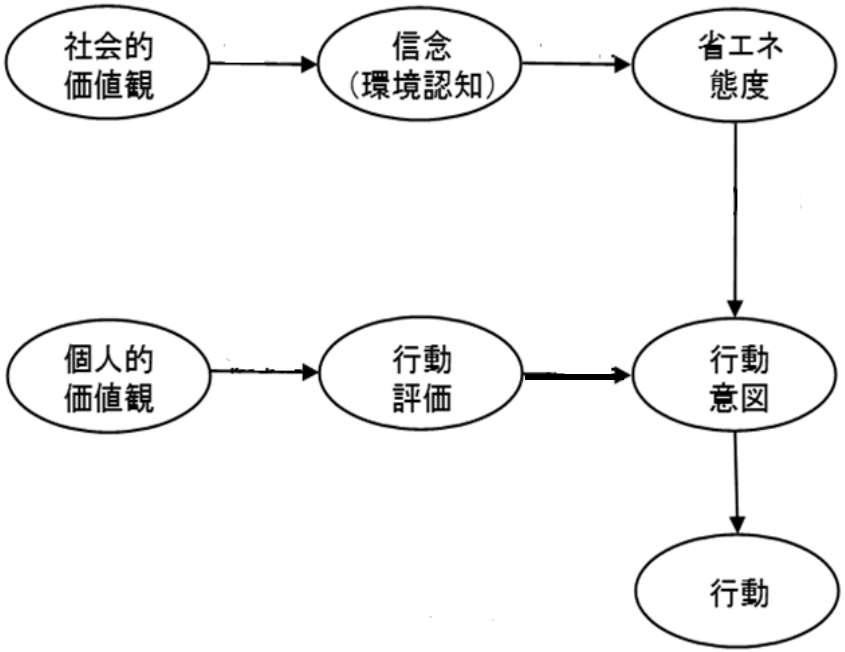
Ce: エネルギー消費　Y: 所得　Np: 世帯人数　T: 生活時間　Ned: 保有家電数　EC: エネ意識　V: 価値観

研究の枠組み：仮説モデル

1）自然や周囲を慮る志向性を示す**社会的な価値観**は，**高い行動意図や実践度**と結びつき**エネルギー消費量を低減**する方向に作用する

2）周囲よりも自己を尊重する**個人的な価値観**は，**省エネ行動意図や実践度との結びつきが弱く**，**エネルギー消費量を増加**する方向に影響する

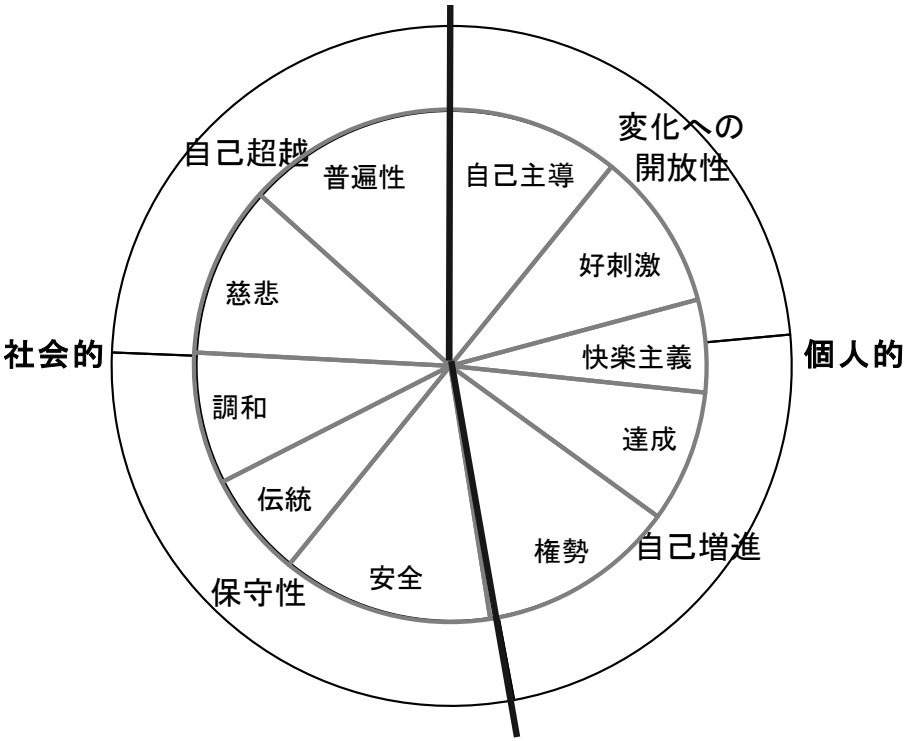
3）**エネルギー意識は高いほどエネルギー消費量を抑制**する方向に作用するが，人の**信念**を形成するエネルギー意識は**社会的価値観**と結びつきが強く，規範感や道徳観，コスト評価などの**実行可能性評価に関する意識は個人的価値観**と結びつきが強い



参考：Schwartzの価値理論

【Basic Human Value Theory】

価値は、
個人の行動の目標であり，どのような状況においても個人の行動の根底にある
一貫した概念　⇒ 行動を動機付けるもの（motivational value）



社会的		
自己超越	普遍性	社会的公平性・自然や全ての人に対する理解・寛容
	慈悲	身近な人々の福利の保全・向上
保守性	調和	礼儀正しさ・従順さ，他者を傷つける行為や規範を犯す行為の抑制
	伝統	伝統文化・風習・宗教
	安全	社会秩序・他者との関係，自己の安全・安定の重視

個人的		
変化への開放性	自己主導	自由・好奇心・自身の独立思考・行動
	好刺激	刺激的な体験，新しさ，挑戦
	快楽主義	自分の喜び・快楽・満足の重視
自己増進	達成	向上心・自己能力顕示の重視
	権勢	社会的地位，特権，他者や資源の支配

Schwartz.S.H.,1992. Universals in the content and structure of values:theory and empirical tests in 20 countries. In Zanna, M. (ed.), Advances in Experimental Social Psychology, vol.25, Academic Press, New York, pp.1-65 を元に作成

調査概要

【全般】
・ウェブ調査会社によるインターネット調査（2019年2月）
・回答数：1945人（有効回答数は1579人）

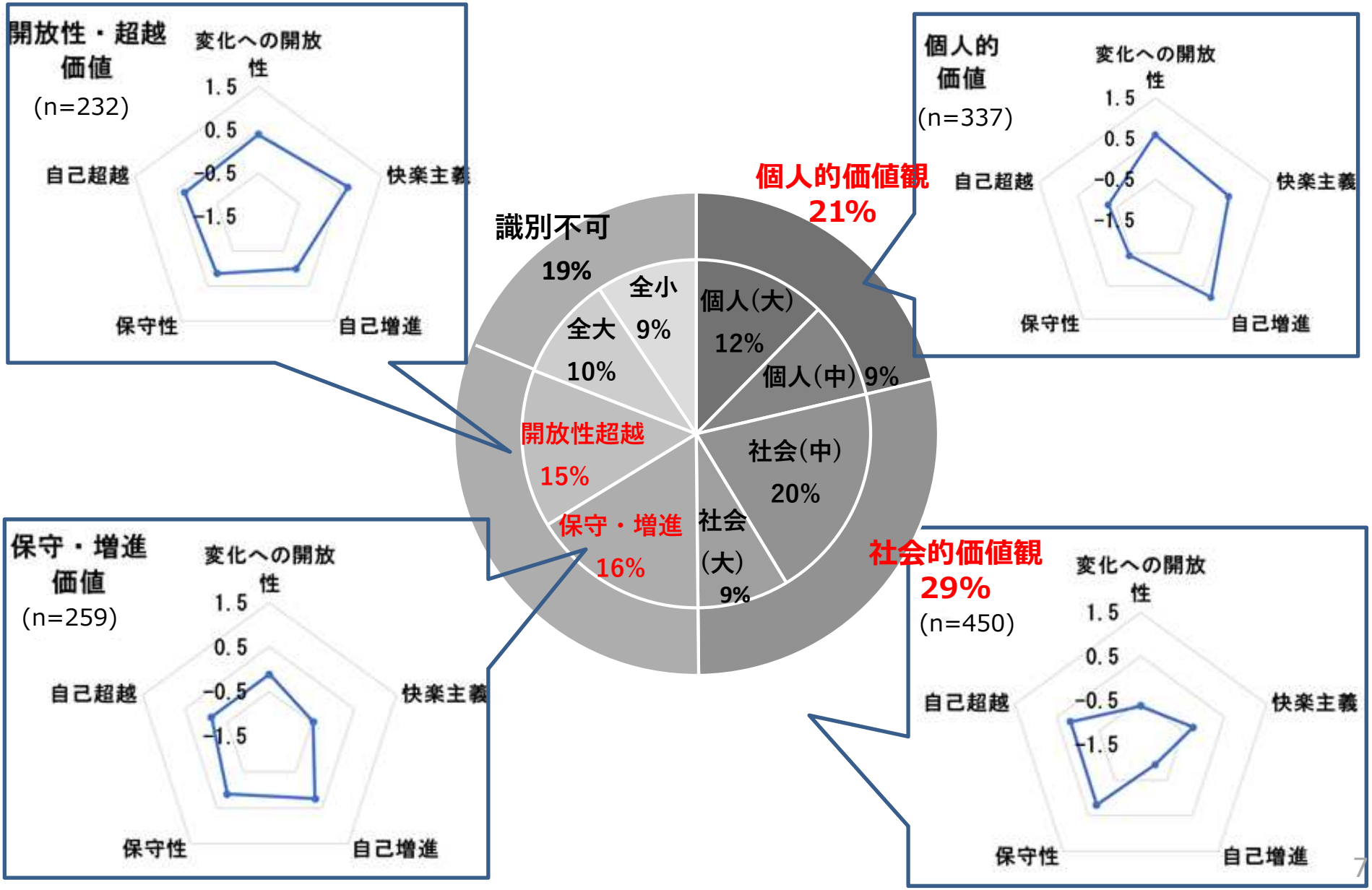
【スクリーニング項目】
・首都圏（東京，埼玉，神奈川，千葉）在住の 親子2世代家族
・日本の電源のあり方に対する意見（2012年のエネルギー選択に関する国民的会議実施時の選択肢）
・料金票に基づきエネ消費量の入力ができる人を優先

【本調査項目】
・生活全般の価値観 20項目 ・エネルギーに関する意識 30項目
・具体的な省エネ行動 19項目に対する実施意向と実践度
・エネルギー情報（電気、ガスの消費量および料金）等

【分析に用いた変数】

価値観	①変化への開放性, ②自己増進, ③自己超越, ④保守性, ⑤快楽主義 の各因子得点
エネルギー意識	①責任帰属 ②態度 ③規範感 ④危機感 ⑤コストベネフィット（CB）評価 ⑥震災感情 の各因子項目の下位尺度得点
省エネ行動指標	アンケート19項目に対する行動意図および実践度の各「総合得点」 および実践度について「実践度高項目数」，行動意図，実践度それぞれについて「習慣変容」「設定調整」「家族」の下位尺度に対する尺度得点

価値観分類

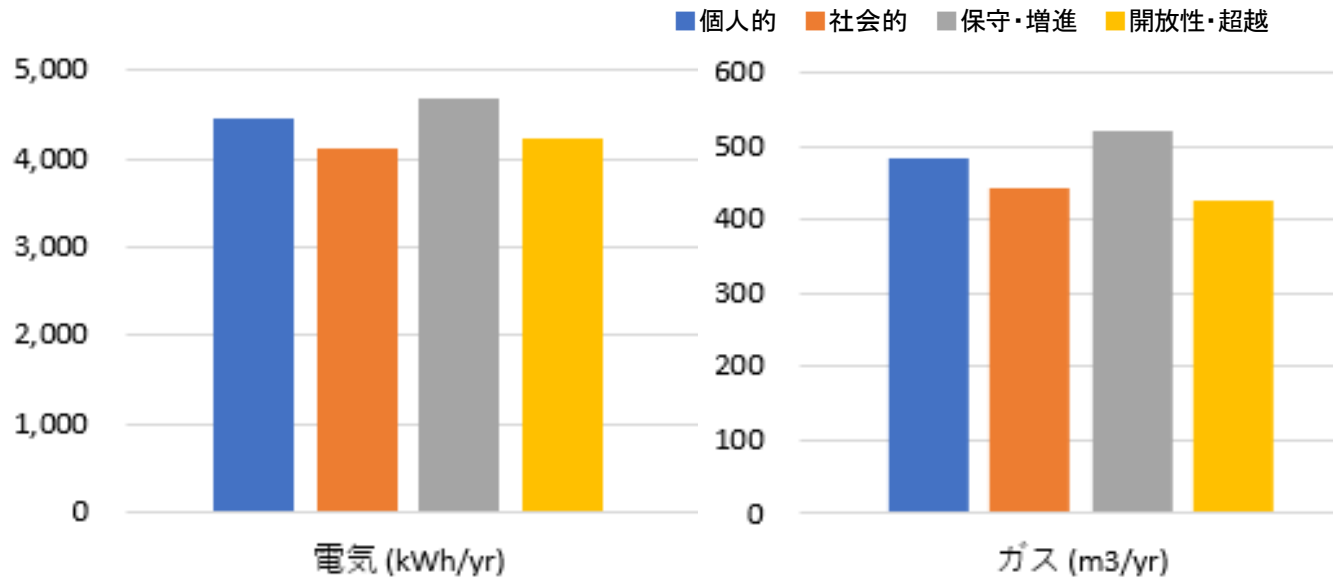

開放性・超越価値
(n=232)
変化への開放性
1.5
0.5
-0.5
-1.5
快楽主義
自己増進
保守性
自己超越
個人的価値
(n=337)
保守・増進価値
(n=259)
社会的価値観
29%
(n=450)
個人的価値観
21%
識別不可
19%
全小
9%
全大
10%
開放性超越
15%
保守・増進
16%
社会(大)
9%
社会(中)
20%
個人(中) 9%
個人(大)
12%

価値観分類による比較

（一元配置分散分析;
□p>.01, ■p>.05
■p>.1 ■ns）

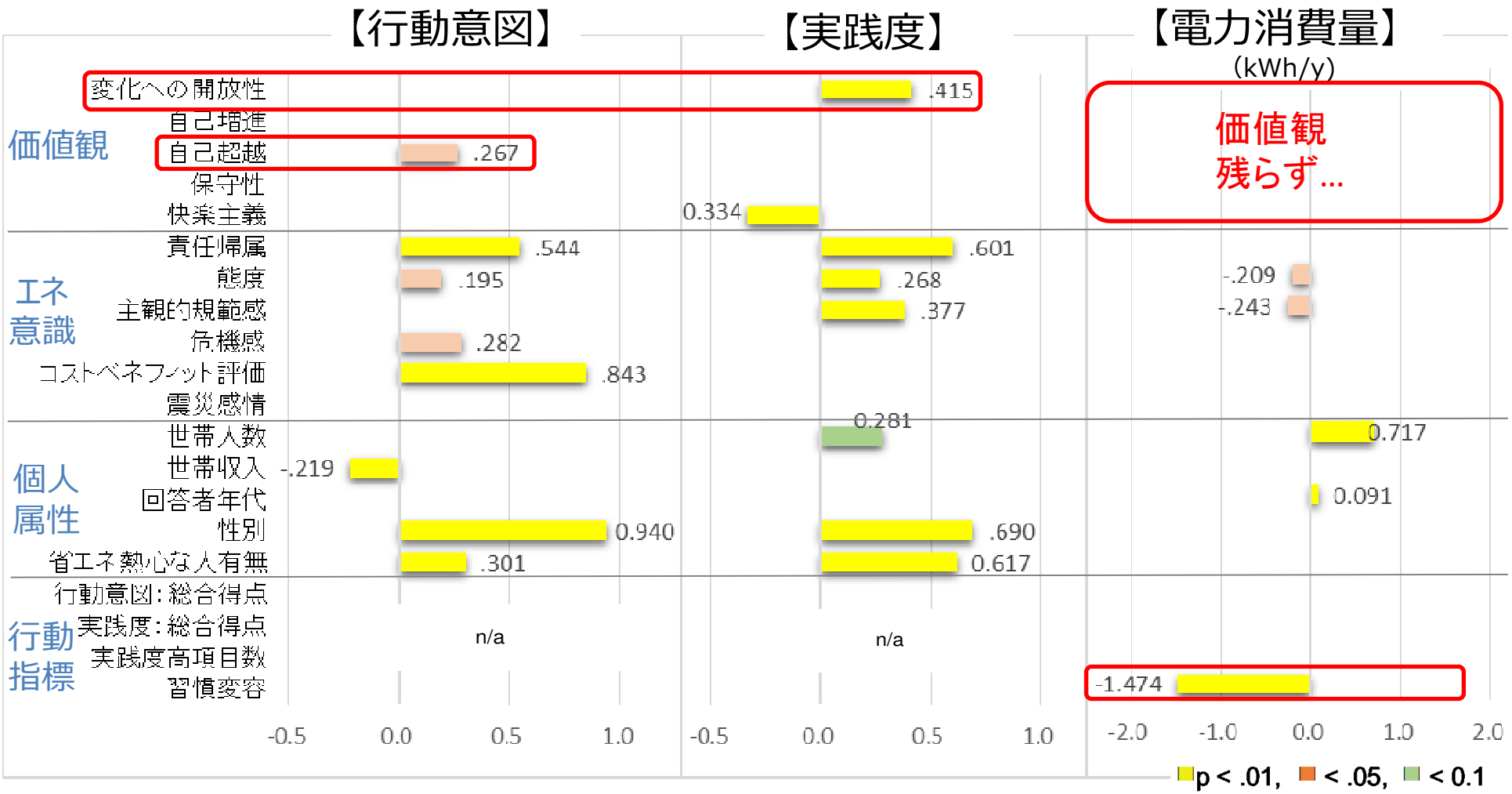
赤字＝高、青字＝低

	説明変数	個人的 価値観 (n=337)	社会的 価値観 (n=450)	保守・増進 (n=259)	開放性・超越 (n=232)	F	p
エネルギー意識	責任帰属	4.37	4.54	4.45	4.60	3.793	0.010
	態度	3.98	4.36	4.26	4.23	9.503	0.000
	主観的規範感	3.80	3.49	3.71	3.80	8.384	0.000
	危機感	4.51	4.85	4.72	4.84	8.529	0.000
	コストベネフィット評価	5.43	5.90	5.60	5.77	20.434	0.000
	震災感情	4.06	4.31	4.28	4.29	3.480	0.015
行動意図	続けて入浴	5.31	5.78	5.53	5.69	10.351	0.000
	リビングで過ごす	5.01	5.40	5.10	5.31	6.435	0.000
	設定調整	5.05	5.49	5.26	5.39	16.013	0.000



エネルギー消費量	電気 (kWh/yr)	4443.62	4121.80	4667.14	4214.66	4.557	0.004
	ガス (m^3/yr)	485.24	444.42	521.41	426.78	2.714	0.044

行動指標に対する影響要因の検討



・影響要因となる価値観： 自己超越（行動意図）開放性（実践度）

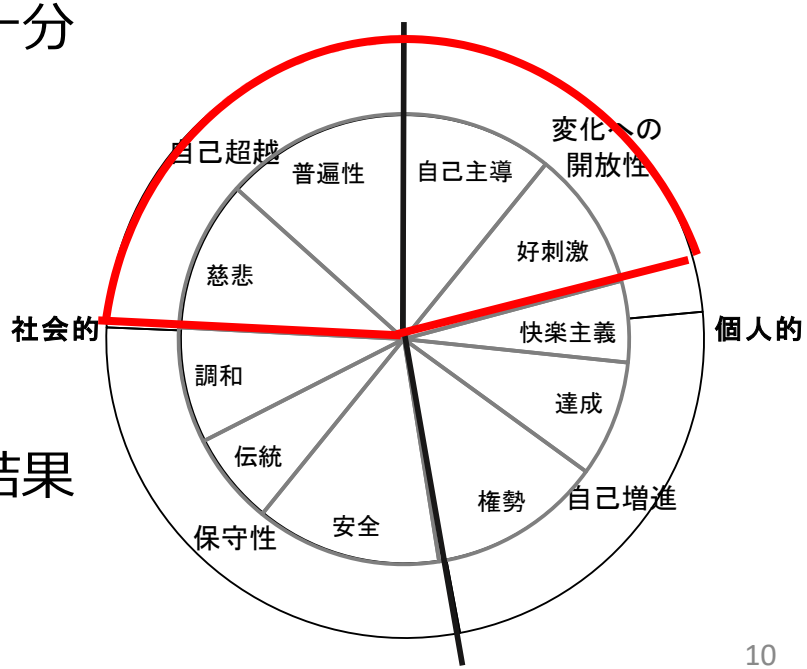
・エネ消費に影響力がつよい習慣変容には自己超越が間接的に影響
　年間総量ではなく季節ごとに分析できると変わる可能性も

まとめ

本研究では 省エネルギー行動に対する価値観の影響を検討した

✓ その結果、**価値観とエネルギー意識、行動意図まで**の関係は 概ね**仮説を支持**
・社会的価値観グループ ⇒ エネルギー意識・行動意図＝高い
・個人的価値観グループ ⇒ エネルギー意識・行動意図＝低い

✓ ただし、価値観やエネルギー意識の中でもより内的な動機となる信念（危機感や責任帰属等）は**行動まで影響し得ていない**
➡ 社会的価値観［自己超越］だけでは不十分
個人的価値観の中でも
行動に対してオープンな姿勢で，
かつ主体的に考え，行動していく志向
［変化への開放性］の醸成が重要



✓ 理論化の課題：
・ 首都圏在住親子2世代世帯に限定された結果
・ エネルギー消費量の分析も限定的

付記

論文

大塚彩美、増田達矢、鳴海大典「省エネルギーを推進するライフスタイルに関する研究」
日本建築学会環境系論文集　2020年10月　第85巻　第776号 pp.767-776

謝辞

前例のないコロナ禍の中で BECC Japan2020を オンライン開催にご尽力いただいた事務局・後援者の皆さまのご尽力に感謝申し上げます。

また本研究は科学研究費助成事業（課題番号18K18896）により実施された.